



年間 21万匹 のねずみを捕殺



健康感謝募金の日をPRする車

第一部 歴史

スクリーンに映し出される写真で、取り組みを振り返った。創成期の「環境保健夏季大学」「県内いっせいねずみ駆除運動」「健康感謝募金活動」にはじまり、昭和五十年代の「衛生教育バス」による健康教育事業、平成の環境家計簿活動や全県共通事業重点メニュー、地球温暖化防止活動などが紹介された。



昭和51年～衛生教育バス

夏季大学

第50回記念フォーラム

『公衛協の歴史といま』

～時代のニーズを捉えた活動に向けて～

第50回を迎えた環境保健夏季大学では、「公衛協の歴史といま～時代のニーズを捉えた活動に向けて～」と題し、歴史・現在・展望の三部構成で記念フォーラムを開催した。

第二部 現在

平成二十年度から始まった地域活動支援基金活用事業の一つである「環境と健康のユニティ活動助成事業」の昨年度実践報告を、実施団体の代表が壇上で発表した。

会場からは、資金調達や事業展開のノウハウ、行政や他団体との連携手法など、さまざまな質問が飛び出して活発な意見交換が行われた。



第三部 展望

当協会近光理事長が、公衆衛生や環境保全活動の実践者である公衛協と、それを支援する環境協の役割を踏まえ、環境協の支援事業の構造を、財源や経営状況、職員の増減などから多面的に説明した。

まず、公衆衛生と環境保全の向上を理念とする環境協が健康づくりと住みよい環境づくりのための住民運動を実践する公衛協を支援する枠組みを確認した。次いで、環境協の事業活動の利益を、この一年間に約十三億円拠出して

きたことを紹介した。

そして、法人移行では、基本理念を継承して地区組織を育成・支援することとし、非営利性が徹底された法人として「一括で一般財団法人へ移行する」方針で、新法人移行後も、法改正の動向等を見極めながら、速やかに公益認定を目指すべく検討を進めていくことを説明した。

最後に、新法人に移行後も公衛協への支援はこれまで同様継続することを説明し、公衛協と環境協が連携して地域に貢献していくことと呼び掛けた。



「公衛協活動の今後に向けて」と題し、環境保健協会と公衛協の今後について語る近光理事長

一万人の食チエック事業

中間報告

六月十九日の食育の日を皮切りに、二十五日までの七日間の食チエック事業強化期間が終了した。ここでは、強化期間の実践結果の報告および夏季大学での「おたのしみ抽選会」の様子をお伝えし、一万人の食チエック事業（以後、食チエック事業）の中間報告とする。

◆食生活改善のきっかけを指して開始

食チエック事業は、前述七日間の強化期間、また定例チエックデー（毎月十九日）に

各公衛協で実施が検討された。申請数は、二十公衛協（市町別に置き換えると十八公衛協／二十六公衛協）。推進委員数は、五千九百六十八人となった。食品数の数え方は、簡単なルールを「食チエックメニュー

◆中間報告お楽しみ抽選会

食品数チエックの強化期間後、各公衛協で記入したカードは回収、集計され、第五十回環境保健夏季大学（七月七八日）へ持参された。集まったカードは、千四百三十四人分。回収率は二十八・一％だった。回収率について、ある公衛協事務局員からの報告書



集まった約1,400枚のカードから抽選を行った。(上)、景品である健康グッズをもらい喜ぶ参加者たち(下)

18市町公衛協、約5千人が参加

まずは夏季大学でおたのしみ抽選会

推進委員が毎日の食事で摂取した食品数を数え、食チエックカードに記録するという事業。昨年度末の公衛協ブロック会議、今年度当初の事務担当者会議（四月）で当会から事業内容の説明・周知し、

アル（A三版面刷り）として配布し、細かい部分は各個人へお任せした。というのも、この事業の目的は、内容を他の人と比較したり、厳密な数を出すのではなく、あくまで自らの食習慣の現状を把握し、食生活改善への第一歩とすることである。このことを共通認識として、強化期間の七日間、県内一斉に取り

には、「実践の期間と回収までの間が短かったため、集約が難しかった」との意見があった。

夏季大学二日目は、食チエックカードの集計結果報告、そして「おたのしみ抽選会」を実施。参加者から食品数チエックの感想を聞いてみると、「食品数の充実に努力するようになった」など、多くの方

買ったようだ。また、進行役の「気をつけたこと」という投げかけに「種類に乗せる具を工夫した」といったアイデアも出された。

おたのしみ抽選会での景品には、健康づくりに寄与するものを選定。リフレッシュ施設利用券（五人組）、体組成計や活動量計などの健康グッズ、そして開催地である安

浦町特産品詰め合わせをそれぞれ十組、合計三十組が用意された。また、会場のグリーンピアせとうちから、ペア宿泊券が進呈された。これらの景品を巡り、抽選会がスタート。引かれたカードが読み上げられるたびに、参加者は一喜一憂した。

健康な体を保つために、バランスのとれた食生活は欠かせない。この事業をきっかけに、ぜひ毎月十九日は食品数の定例チエックを心がけ、傾向を知ること、自分に合った健康的な食習慣の確立につなげていきたい。

(地域活動支援センター)